

《思》

- 6 思ふより夫の背低き花野かな ばんだ
花野に立つ夫をしみじみと眺めていると、やさしい心がのぞいた。(臺子)
- 3 思ひきり晴れし連山威銃 たちおとめ
秋空と連山が思い切り広く威銃の音が響き渡る。(英一)
- 3 たまさかに思ひ合ふこと衣被 さや
衣被の季語が素的です。(たちおとめ)

《胡桃》

- 8 胡桃割る信濃毎日新聞紙 くるみ
特産の信濃くるみでしょうか。地元の新聞紙がリアルです。(千代志)
- 6 留守にして開けつ放しや胡桃の実 英花
実際の家？それとも食べ終えた胡桃の半身？両方に読めました。(美紀)
- 2 卓上のショートホープと胡桃二個 節子
ショートホープは昭和の男。胡桃二個でリハビリ中を想像しました。(草蛙)

《自由》

- 4 しづかさには芯のありけり風の盆 山音
秋の夜を徹しての風の盆、共感の一句。(みやこ)
- 6 雁や何処へゆくにも橋渡り りりい
スケール感と郷愁を感じさせるリズムカルな一句。(くるみ)
- 3 ワイシャツの引き締まりたる九月かな 小和楽
汗でよれていない、気持ちもパリッとしたシャツですね。(みさこ)